

式辞 今年の春は、穏やかな日が続き、桜の花も、今にも咲こうとしています。空の青さも、段々と濃くなり、まさに、春の訪れを感じる季節となりました。この良き日に、吉川市、市民生活部長 荒川泰弘（あらかわ やすひろ）様、吉川市教育委員会教育委員 小林 照男（こばやし てるお）様の御臨席を賜り、令和四年度第七十六回卒業証書授与式を挙げてきますこと、心から感謝いたします。

さて、第七十六回卒業生として、旅立ちの時を迎えた卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。只今、百六十七名の皆さん、お一人お一人に卒業証書をお渡ししました。その証書は、義務教育九か年の全ての課程を修了したという証であると共に、伝統ある吉川市立南中学校一万八千人に達する卒業生の一員となった証でもありません。その証書を手にし、今、皆さんは何を思っているでしょうか。

思い起こせば三年前の四月は、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言と臨時休業のさなかにありました。これだけ、科学が発展した時代に、こんなことが起こるのだらうかと、目を疑うほど、世の中は混乱しました。私自身のことを

思い出せば、毎日毎日職員室でたった一人で勤務していました。仕事を終えて、自宅に戻る途中、近隣の大型ショッピングモールに行ってみると、いつもは止める場所がないほど込み合っていた駐車場に車が一台も止まっていない様子を見て、衝撃を受けたことを覚えています。がらんとした職員室、誰もいない学校。つくづく、学校は生徒がいて、初めて成り立つ場だと思いました。

その後、ようやく入学式を迎えたのは六月のこと。保護者の参列ができない中で入学式を行い、皆さんの中学校生活が始まりました。歴史は繰り返すと言いますが、約百年前の千九百十八年にも、スペイン風邪と呼ばれる感染症が人類を襲い、全人口の二十七パーセントの人が感染し、死者は一億人に達したという統計もあります。当時は、ウイルスの分離方法も確立されておらず、まさに原因不明の感染症でした。そして、スペイン風邪が数年の時をかけて収束したように、新型コロナウイルス感染症も、収束に向かおうとしています。だからこそ、皆さんに伝えたいことがあります。この三年間、様々な場面でできなかつたことが多かった皆さんだからこそ、伝えたいことです。それは、皆さんは何もできなかつた、かわいそうな

コロナ世代と、ひとくくりにされる存在ではないということですよ。私は知っています。困難な状況の中でも、それに負けず、工夫と努力を続けてくれたこと、修学旅行も、運動会も、文化祭も心から楽しんだこと、受験という人生の岐路でさえ、前向きにとらえ、努力したこと、当たり前前の日常を取り戻そうと頑張ってくれたこと、皆さんが、とても優しく、心づかいができて、仲間思いであるということ、そして、南中学校でどんどん立派に成長していったこと。私は自信をもつて言える。皆さんは、本当に素晴らしい生徒だ。最高の卒業生だ。だから、かわいそうだななんて言われたら心外なのです。皆さんは、コロナに負けなかった世代。コロナに打ち勝った世代であると言ってほしい。そう強く思っているのです。

さて、そんな皆さんに、ひとつだけ、メッセージを送りたいと思います。それは、これからの未来の話です。

皆さんの三年間に大きな変化があったように、皆さんがこれから歩んでいく長い人生は、大きな変化の中にあります。ICT技術は日進月歩で社会全体の在り方を変えていくことでしょう。また、地球温暖化の問題も深刻です。さらに、AIの発

展やロボットの進化が進めば、働くことの意味や職業自体が全く違う形に変化するかもしれない。まさに、これからの時代は、人類が経験したことのない速さで変化するはず。時には、その変化に一人では対応できないこともあるかもしれない。皆さんの十五年間の人生で、同じ日は一日もなかったはず。何も無い日などないのです。だからこそ、これからの人生で様々な変化や困難に出会ったとしても、一人ではなく、周りの人と協力して、知恵を出し合い、力を合わせて、困難を乗り越えていってほしいと思います。

皆さんは、本日、この慣れ親しんだ南中学校を旅立つ時を迎えました。小さなころから、ともに切磋琢磨してきた仲間、吉川市というコミュニティから、さらに広い社会へと旅立ちます。そして、生活が大きく変化することになります。

そこには、今まで知らなかった世界があり、これまで知らなかった考え方や知識にふれることとなります。それぞれの進む道に夢や希望があるのと同時に、不安や戸惑いがあることは当たり前なのです。そんな時、皆さんに覚えてほしいことは、「よりよく生きる」という南中学校の学校教

育目標です。昨年度の卒業式でも同じことを話しましたが、この「よりよく生きる」という言葉以上の目標を、私は知りません。それほどまでに、洗練された人生の究極の目標だと思っています。何か困ったとき、困難な壁に対峙したとき、「よりよく生きる」という究極の目標に対して、どうあるべきかと考え、進んでいけば、大丈夫です。コロナに打ち勝った皆さんなら、大丈夫です。一時間一時間、一日一日を大切に、「よりよく生きる」という人生の目標を見失わず、新たな道で光り輝くことを期待しています。本当に卒業おめでとう。

さて、最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、お子様方の中学校ご卒業、まことにおめでとうございます。義務教育九か年の課程を無事終了し、晴れて中学校卒業を迎えられたこと、まさに、感慨ひとしおのこととご推察いたします。本当におめでとうございます。また、本校教育にいただいたご理解・ご協力に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。

終わりにりましたが、ご多忙の中、ご臨席を賜り、本校卒業証書授与式にご光彩を添えていただきました。ご来賓の皆様を重ねて御礼を申し上げますとともに、百六十七名の卒業生がそれぞれ

れの道で、大きく羽ばたくことができますよう、  
いつそうのお力添えをお願い申し上げます、式  
辞といたします。

令和五年三月十五日

吉川市立南中学校 校長 福嶋正悟